

当たり前前の毎日を守る為に

JAオホーツク網走青年部



J Aオホーツク網走青年部とは？

- 5つの委員会から構成され、部員はいずれかに所属



JAオホーツク網走青年部とは？

- 食育事業 親と子の「ふれあいアグリスクール」
 - 当青年部の基幹事業
 - 地域内小学生親子を対象
 - 平成22年に名称・内容を変更し、毎年5回開催（植付、収穫、調理加工、施設見学 等）



- 消費者と直接ふれあう機会が少なく、
子どもたちと直接ふれあうことが出来る貴重な事業
- 楽しい、笑顔、「おいしい！」の一言、元気な姿



- 改めて農業への“やりがい” “活力” をもらうことが出来る。

当たり前の毎日とは？

- 子どもたちの笑顔、「おいしい！」の一言
- 子どもが男3人。家に帰るとやんちゃでやかましい。
→でもそれがいい。
- 仕事中、唯一の楽しみである奥さんのおいしい手料理。
→逆に夏場に太るなんてことも、、、
- 青年部の仲間との交流会や打ち上げ。 等



当たり前になってしまっていないか？

当たり前の毎日とは？

- 農業者だけでなく、すべての人に。

それぞれの「当たり前の毎日」がある！



農業を取り巻く情勢

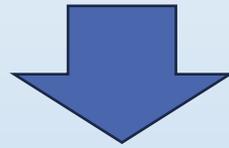
- 国際紛争や急激な円安の進行による肥料・飼料の高止まり
- 農業者の減少（高齢化、担い手不足）
- 気候変動等による自然災害の多発や栽培適地の変化
- 家畜の伝染病、作物病害虫の発生 等



“ポリシーブック”を基に活動

- 勉強会（施肥設計の見直しによる生産コストを減少させる為）
- 視察研修（新技術・スマート農業の先進地視察、生産性向上の為）
- 地域貢献活動
（地域との結びつき強化、農業への理解を深めてもらう為） 等

全ての事業が
農業者の「当たり前前の毎日」を守ることに繋がる



消費者へ安心・安全な農畜産物を届ける。



消費者、すべての人の
「当たり前前の毎日」を守ることに繋がる！！

ポリシーブックとは？

- 「政策提言集・行動方針集」
- 営農していくうえで抱えている“課題” “疑問点” など部員同士で問題を出し合い、解決策を考える。
 - 自助：自分たちで取り組み、解決する。
 - 共助：ともに協力し、解決する。
 - 公助：行政等に政策として要請する。

JAオホーツク網走青年部では

部員から部員、先輩から後輩へ「想いを繋ぐ本」

スローガン「当たり前の毎日を守る為に」

当たり前の毎日を守る為に

- 生産者が元気に「当たり前の毎日」を過ごす事！！
- 毎日当たり前のように、大切な家族や仲間と農作業をしている。
- もしちょっとした油断で農作業事故を起こしてしまったら、その当たり前の毎日は二度と戻らなくなるかもしれません。



北海道での農作業事故件数 (H23~R2)

- 負傷事故件数 **22,700**件
負傷事故の内訳
家畜との接触 36.5% 農業機械 29.7%
転倒・高所転落 16.3% その他 17.4%
- 死亡事故件数 **177**件
死亡事故の内訳
農業機械 75.1% 転倒・高所転落 10.7%
家畜との接触 3.4% その他 10.8%
- 死亡リスクは全産業の **1.2倍**以上 建設業の **3倍**

農作業安全との出会い

- 冬になると除雪のアルバイトに行く部員も多く、建設業界に触れる場面があり、KY（危険予知）運動やヒヤリハット等作業前後に事故を防ぐための安全対策がしっかりとされている事に気が付いた。



勉強会（H30年）

- GAPの導入手順と生産者に対するメリットについて
- GAP＝食品の安全確保と思っていた。
- GAPは「食品安全・環境安全・労働安全」が柱
労働安全も含まれている事を学んだ。



当たり前の毎日を守る為に

農業は家族労働が基本、もしも農作業事故が起きてしまったら

大切な家族や仲間が **“被害者”** や **“加害者”** に！

そんな悲しいことが起きてしまわない様に

大切な家族や仲間の笑顔を守る！より良い農業経営を実現するために！

安全作業の為の知識を身に着ける必要がある！

令和元年に結婚した1人の部員の提案（想い）がきっかけで

農作業安全への取り組みに力を入れることとなった。

青年部員への意識付け（令和元年）

- 講師：農研機構、北海道農作業安全運動推進本部
- 農業機械の事故事例から見えた「本当に効果のある」安全対策について
- 農作業事故が減らない背景
 - 労働安全に対する法規制が適応されない
 - 安全管理の指導を受ける義務などが無い
 - 安全確保が不十分である事 等
- 補助が必要な場面でも一人で作業せざるを得ない
- 一人で事故を起こした際に発見が遅れ重篤化する恐れがある
- 実際の事故事例を基にどのように事故を減らしていくか、対処方法や対応等について部員への問題提起、意識付けを行った。



青年部員への意識付け（令和2年）

- オホーツク管内において、農作業による死亡事故が相次いで発生、個々の経営はもとより地域農業の安定的な振興を図る上で、農作業事故の防止が重要な課題となっていた。
- 農作業事故ゼロ推進キャンペーン（令和2年～4年の3か年）
 - オホーツク地区農作業安全運動推進本部
 - オホーツク総合振興局、連合会北見支所等で組織
- オホーツク農作業安全フォーラム（紋別市・網走市）が開催
 - JA職員によるラジオCMでの事故防止呼びかけ
 - 事故啓発ステッカー、ポスターの配布



青年部員への意識付け（令和3年）

- 講師：北海道農作業安全運動推進本部
- 農作業機を装着・けん引した走行の規制緩和
- 農耕トラクターの公道走行に関する勉強会
- コロナ禍の為、部員向けに動画を発信



部員の父親から

- 規制緩和について広く周知する必要があると思っていた。
- 動画から法改正を学んだ青年部員や案内を目にした家族が知識を共有し普及させていくことは大変良い取り組みだ

令和4年1月28日

青年部員 各位

JAオホーツク網走青年部
部長 佐藤 健
副部長 渡辺 誠
JA YOUTH

農耕トラクターの公道走行に関する動画の公開について

時下、益々ご清栄の事とお喜び申し上げます。
さて、確認につきまして、当青年部部長委員長の主催として、本年1月に法改正による農作業機装着・牽引した農耕トラクターの公道走行についての動画を企画してまいりましたが、オホーツク管外より講師を招かなければならない等、新型コロナウイルスが急速に感染拡大している事から、開催を中止する事となりました。
講師を依頼しております北海道農作業安全運動推進本部より、研修会等に使用する内容を収録してDVDが制作され、各関係機関へ配布されておりましたので、その動画を部員限定で公開する事となりました。
動画は1～8までありますが、2～4の内容が特に普段の農作業に関わるところかとお思います。その部分の資料を同封致しますので、動画と合わせ確認頂きます様、お願い申し上げます。
又、動画公開期間は3月末日までと致します。

◆動画内容

1. 開会あいさつ
2. 農作業機を装着・牽引した農耕トラクターの公道走行ガイドブック
3. 農作業機を装着・牽引して走行する農耕トラクターの規制緩和について
4. 農耕トラクターで農耕作業用トレーラーを牽引して公道走行するために必要な対応について
5. 特殊車両通行許可制度について
6. 特殊車両オンライン申請システムについて
7. 自治体への申請について
8. 閉会あいさつ

◆動画URL

https://drive.google.com/drive/folders/1d55t8uTFLy6_Z8U2lmaRn1j1L14e1?usp=sharing

◆動画 QR コード

14 裏面へ続く

青年部員への意識付け（令和4年）

- 講師：ホクレン北見支所（基調講演、意見交換）
- 農作業事故ゼロ推進キャンペーン（最終年）
- 令和5年以降、農業現場が主体となって農作業安全への取り組みを進める為のキックオフとして
 - フレコンバック等の資材の耐久性
 - 悲惨な事故写真
- 改めて農作業安全は農家にとって**1丁目1番地！**



青年部員への意識付け（令和4年）

- (株)クボタの協力もあり、日本農業新聞に取材を依頼
- この取り組みをきっかけに各地で農作業安全への活動を活性化したい。

2023年2月23日

農作業事故ゼロへ 安全対策 地域ぐるみで JAオホーツク 網走 青年部 

| 地方版

 Twitter  Facebook  Line  Mail

意見交換会60人が参加

JAオホーツク網走青年部は、地域ぐるみでの農作業安全対策を進めている。農作業安全を個人の努力に任せるのではなく、地域の課題として農業者が共に考えることで、農作業事故ゼロを目指す。

対策の一環として、同青年部とホクレン北見支所は17日、網走市で農作業安全をテーマに意見交換会を開いた。青年部の伊勢谷浩一郎長や同支所営農支援室の橋本修市主任技師ら60人ほどが参加した。

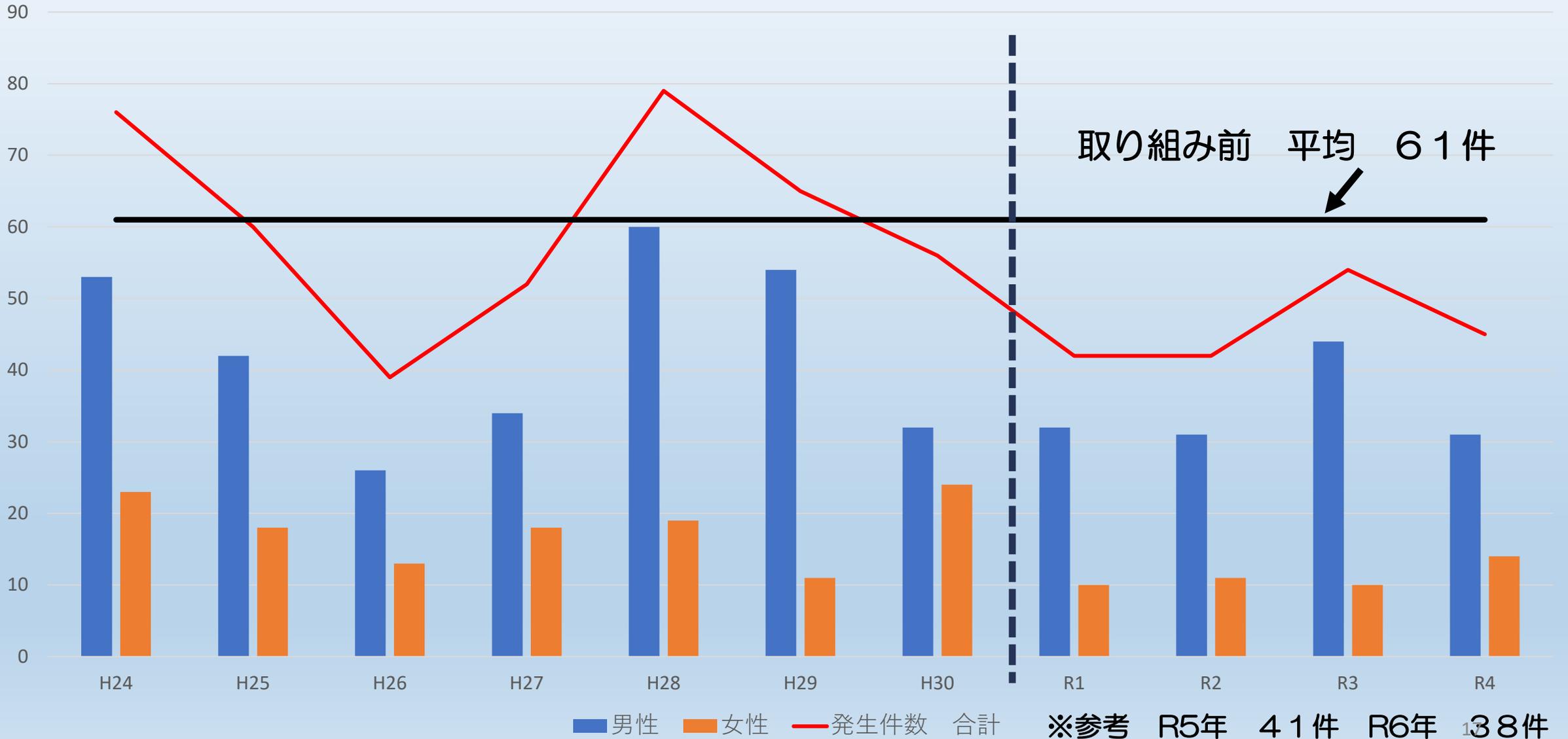
同青年部は以前から啓発運動に取り組んでいたが、本年度からオホーツク農作業安全運動推進本部との連携を強化。地域包括型の対策に着手した。

意見交換で、橋本主任技師は、特に死傷者が多い農業機械の注意点や点検でエンジンを停止することの重要性を指摘した。事故に遭遇した事例で損傷した悲惨な手足の写真や、管内で事故を起こした農業者の思いなどを紹介した。



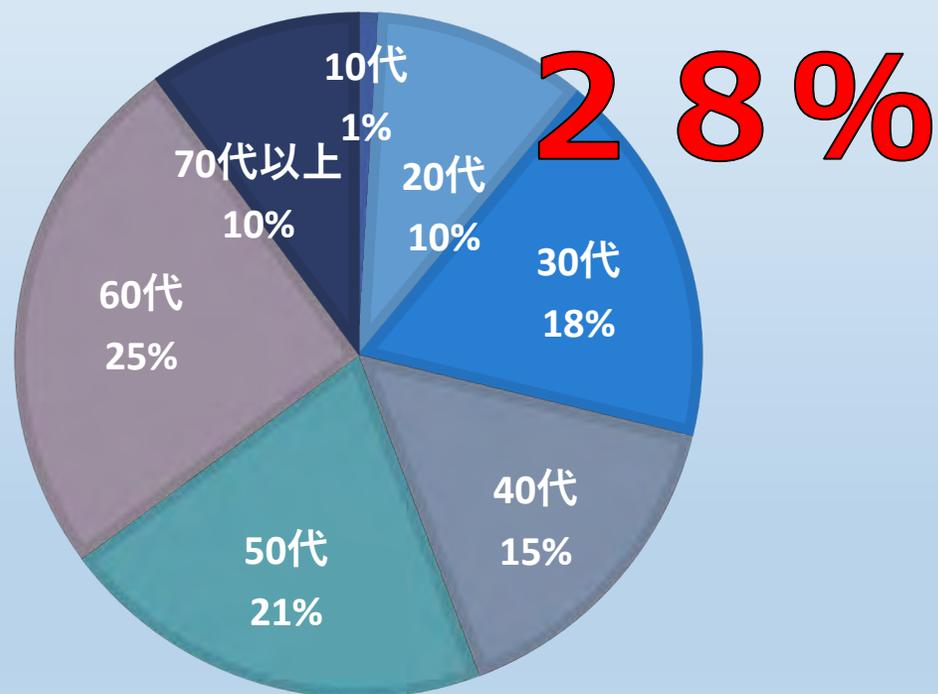
注意の旗のデザインを示し事故防止を訴える伊勢谷部長（網走市で）

JAオホーツク網走 労災事故発生件数

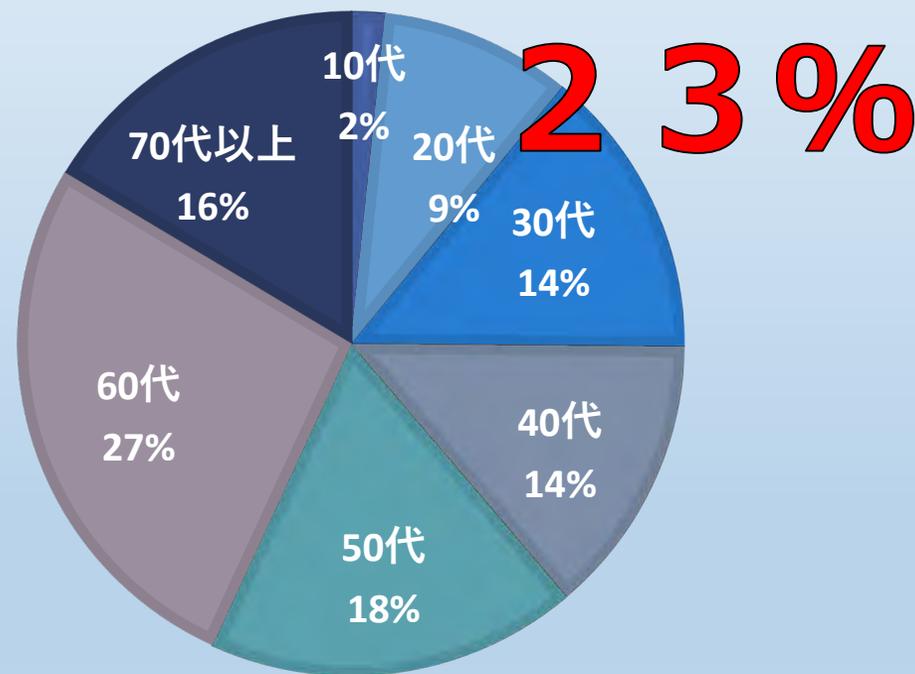


J A才ホーツク網走 年代別 労災事故発生件数

取り組み以前 (H24~H30)



取り組み後 (R1~R4)



■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代以上

JAオホーツク網走青年部 ポリシーブック

目次（R5年）

- 農業者・担い手の減少について
- シストセンチュウ対策について
- 感染症対策（コロナ等）について
- 農業政策について
- 農畜産物の消費拡大について
- 青年部活動について
- 情報発信について



JAオホーツク網走青年部 取り組みと今後の展開

R5年度以降、農作業事故ゼロを目指すためにオホーツク農作業安全運動推進本部をはじめとする関係機関へ私たち青年部が以降求めること

＜JAオホーツク網走青年部の目標＞

「当たり前」の実現

農業に関わる全ての人々が主体的に取り組む環境の実現
事故発生数の減少、笑顔の絶えない明るい未来・・・等

JAオホーツク青年部における
農作業安全への取り組み意識（イメージ）



生産者段階

ステップ2：オホーツク管内から全国盟友へ（R5～）

青年部・女性部や生産組織等を中心に、各地域において生産者自らが継続的に農作業安全の意識付け ⇒ 「当たり前」の取り組みに

各地域それぞれの主体性に基づく取り組み

ステップ1：青年部員への意識付け（～R4）

農研機構、各農作業安全推進本部、ホクレン北見支所等の関係機関より、研修会の実施をいただき、部員1人1人への意識づけ、問題提起により、身近な「自分ごと」の存在に

推進本部

農作業事故ゼロ推進キャンペーン

農作業安全フォーラム、農作業安全宣言カード、ラジオCMでの呼びかけ、ステッカー・ポスター等

R5年度以降

優良事例の横展開やノウハウの提供等
生産現場の主体的な取り組みのサポート

R2

R3

R4

R5

R6

R7

・・・

オホーツク管内から全国へ（令和5年）

- ケガをしない事だけが農作業事故ではない。
 - 農薬散布中の飛散や風によって飛沫した農薬を吸引してしまう
 - 目的外の作物に付着し農薬残留による健康被害を防止する

【農業者】

- 注意を促す、風向きや強さを確認し防除の目安

【JAへ要請】

- 組合員全戸に配布する為、農協へ補助を依頼。
- 全額補助、組合員全戸配布



オホーツク管内から全国へ（令和5年）

【一般の方（消費者）】

- 農業への理解を深めてほしい
- 農薬ドリフトを正確に伝える為、部員がイラストをデザイン
「ドリフトって車のドリフト走行じゃないんですね。」との声も



オホーツク管内から全国へ（令和5年）

【30秒CMの作成今までやこれからの未来を守ること】

- それこそが農家が働く「本当の意味」
- 1人でも多くの盟友にオホーツクの想いを届けたい！



【青年部 活動実績発表大会】

- オホーツク地区代表、北海道代表、東北・北海道ブロック大会へ

【各種メディア】

- ホクレンGREEN WEB、農家の友
- 日本農業新聞、家の光「地上」
- JA青年部リーダー養成研修 特別講師
- 全青協ポリシーブック研修 特別講師 等

JAオホーツク網走青年部